



就青靈驗記卷之三

目錄

西園十室香三井寺
 西園十室香今徳聖
 西園十室香京清水寺
 西園十室香同六波羅寺
 西園十室香六角堂
 西園十室香草堂
 西園十室香良峯寺

洛陽十室香教念堂
 洛陽十室香春春寺
 洛陽十室香京波羅寺
 洛陽十室香兜岩寺
 洛陽十室香蓮花院
 洛陽十室香長徳寺
 洛陽十室香今徳聖



西國十回書
江州三井寺



いよまでもらうり二里
 柳堂又別曰西貞堂三子
 小書なるいまうり屋之園基
 うり文九十一ひよと十百
 十七ひよあゑ系又南院
 堂とそりて

江州三井寺南院。此は輪くまんとやせん。智徳大師の
 園基也。そは園城あり。天智の義持流の初宗
 して天武天皇の御ひよは。教の和尚宗創ありひよ子
 ともち智徳大師小あぞくあり。そのちゆめせいは
 天智の皇孫の御ひよ。ともゆめ大夫大政大臣結命とて
 此の跡勅ときさみておる也。あづけて崇徳
 ともちあつるにち智徳の御ひよ。卯二月三日り大はの
 ちやれ後の御ひよ。天保ありて志先してりさく。西
 小の山は天保あり。あてりあのみなりしをれらま

の小庭階よりいで、軌道のなみはら、ぼろの完の
不きくたうこ十作丈あり。のこ小初便を立
見志あのみよ、養一といく、柴の居わりの優階の寒
作して移し、もひなをさぐどそこへくすまな
まら即事あり、くばらんぢら、よめちり、既あり
うごもくまよららん、おのよそのあ、あび
よまれなをたづひのみす。右仙貝海伏巻地。
作く名実。と等ら。ともくてぬら海ら、せぬ。
海らにゆいらるるよらうて。明の骨大改大信

小初と崇後寺とは地り、山に於くとせ
らる。その後、智事者、およらうて、崇後寺とせり
のらん、く、てぬてらる。今の崇後寺これ、
志契れ、こりのよあり、あう、柱へよ志契ちと、よ志
くれ、八圓、株寺。崇後寺と、色小、教、初、和尚の、株
の地り、と、智、化、大、作、一、附、屋、一、み、ひ、ま、う、れ、
志、内、教、合、せ、り、三、井、寺、小、お、こ、う、わ、り、の、こ、の、ち、
と、三、井、寺、と、あ、川、の、家、の、大、智、で、成、持、係、の、
海、門、の、り、い、ん、ま、の、の、時、これ、あ、と、り、つ、て、は

りつらつやあまの月二三并たり
わりのひびくふあふ風を

△法陽寺に書ける金堂 維多のうらりあり
維多寺に書ける金堂

は堂にあらせんの住持金孫正とくしんらんどう
しんらんどう。そのゆへひとたづねるふ徳芳
南無山に書ける寺として法あちの類とらん
まてふふ堂を居れらふ。孫正信かとりつて東
次は阿孫正本堂のまゝおんがさふと移せんと

ちるの月づつれとびく我ひらたふ忽ち腹つ
ゆきまのさんげーあいのく。然も由本寺六休
仏よ由り法ひて二十三天の密法をえむとこ
ゆきまの禁法にあらふも秋の川で。同様に
く悲くなまあまのわり。ふてふを作
もの。三人ふふの聲をききみ。は堂を建
たふはあまの法にあらふとてはよあまら
くん知りしとて。そのち寛永の五月に法
寺堂とのらふは堂を焼失。初金堂の地

下おののび川ありまが人の家へひり
 を見れば、こよの観音ありりれあひひり
 次とふまざら申して、なすをあらそひ入る
 ありしとて、なすの寺、なすの同八ひりよとてあり
 け業をそのあひま、なすありのてりし
 於今やその中へくき、なす
 あらみありありあんの業

西國十五番
 山州東今徳野



ことごとくあり三
 本業三あり面
 同基より
 文代十一ひり九百五
 十七年ふあり

ら皆治帝はるげとて、我輩地獄はのり。
り。とて修治て悪人種を一新新地をあらし
る。とて阿そんやうの事はよきとてうらまひ
由長守八もあら。望たられとてしりあひて
はのみとらまらよ半金ありせ給を種を
六月よ由半産うのいあもやせんよ
るされたりなる天宮され。又ある時悪人
律をうぐのめよつてのこまら。この
びあふるまのハ仙母摩や又人のあら

聖く。今皇帝れなげきふあてさといふ
然。海りのみ。らるもの難産のよとす
くのみおれはうせいふあんの難産のち修
佛せせんとして。今皇い利益のよめ
の地はう海きのさる一宮三の塔とてん
ましては親方とうつらあべくとこのま
らにあらて天年二年のあちよわうしうは
とて海。寺号春産とてさされせして
うつらなるる。ある久がとてこれら

むらのものもさういふ平親等の傳とおひい
らせ。あちよきさうしてゆきくびさびゆ
きれいへうへなしてまうるふいふつひあ
まうかふん原。我れひまのせー其傳の
じひのうらふねあそまうるなうらまの
まねらら。寸八分其傳とよのぎれしひよ
かそあまのて。あうさうのうらふあらうなま
それらのこゝろ平産とあつたふまのんか
まめすとあうとあうれはあちの伝あち

本堂もの。と十あひのいあり。あまのいさくは
産ちの八回村九娘。難産し時。清あ本堂へのり
あてて早産し産ふ。その時わあうびは建てる
しやう。このぎよの志記う。すてよ本堂同奉
いああ山よあいさしんがし。回村の軍をがて
ひの伝をいし。おらにひあうくしあて
いんをあうあてしてさあがし。まもあてさ
さうあひよあうらうらもあつる
いあああうれあうけるるらん

山外系清水寺



いまの海のもの三十
丁本堂十五丁四
西同基ら
文化十一の二十十
又のよあたる

山城系系活多寺。八人のあひ子殿に像光
仁天皇の御宇寶龜元年十一月廿五日
本願の延法法師。只如ハ大納言坂上田村九
形りていひとしく大和連の市教八重也。
子崎寺の住持報恩大師の弟子小僧也。法
師やりのありありお家の後ら。大回
三時子とをのこころん中。若修練の思
つて修り。ある夜夏の暮ふらて。寶
龜の二年閏月八日。は長恩りむしと

るに渡川よ。重色れ一洒とらんるをみりら
みの源とてあひて。河津さうのりるよ山城
よも岩敷ハ八坂のた。ちり母川の氷と。清く
志流の下に。まよ。名のとよ一乃。茶店を
仲あ白ぬれを人あり千子れ神呪と讀ん
物をその衣袂に。えて。我とはめ敷
長とくつら。は北小隠。花さるしく。すまふ
二百。ま。なえちを。約。ひ。と。ら
ま。わ。り。我。東。側。の。神。の。孫。ぐ。い。あ。う。我。小

つら。ま。づ。く。は。あ。め。任。べ。は。茶。店。ハ
芝。賣。れ。地。へ。又。ま。人。り。大。樹。ハ。銀。多。れ。料。本
り。ま。ま。物。毎。源。仏。の。時。の。ま。く。子。仏。の
魔。の。及。穂。子。と。へ。ら。ま。さ。り。それと。後。と
て。ま。ま。し。う。ら。ま。ぬ。り。あ。ま。れ。と。ま。く。海。く。し
なん。ぢ。り。ま。く。ひ。ね。お。と。と。げ。ま。く。い。ひ。ぬ。り
て。番。出。利。ま。ま。ま。ぬ。柴。心。ま。ん。が。の。清。く
と。ま。ま。る。ゆ。り。遊。水。れ。ん。を。切。く。ま。ま。く。ま。ま
ま。ま。て。ぬ。ゆ。く。小。山。新。の。岩。よ。番。ま。ま。く。あ。の

履あらしくこれととりあめ海つ。それどおん
ハ銀音の足現うらりとあゆむ。あつた物もこれ
を像と別業令とほくせんと呼んた云々
のがおハたぐもさく一辨の中ハハ只飲あ
れまのころこ。あつたき物ハ決員頼るこ
る。おひひて二匹とぬるまより一袋名港土子
申と清お監坂と回村丸書あま産業のつ祝
おとて一丸床と持ていひはあまさる。あま
の海あつとらんこ。と定ハつたれまよと云ふこ

川係とみそて海おのり茶房のまよはて
おんよあひあめおねれゆか何よめ敷
長まこいあおと。そのまあつたは回村丸
像とをさうしてま河の具敷さるこ
おり家よ海り。書室にかるよ命ぬこ
子ハ三右の清徳う思女らり。さうこいひと後
ておまよとよのけんさうまよとてまぬらと
一おして先お殿とほくらんとつよよ
やくして漢樹林の法すくと平

有。人かれをよびて現うて試みけく
 変にありぬ。物の移山半小くらみくこと
 層とてがらなむようつじくおがへたり。
 ぬめくこれぞこれぞ地半よなるてこ
 かう物のごとく。そふ母麻の子あり。志
 せぬ。これ麻もあつた。只薩摩の使うん
 とて彼麻のうらととめ為麻ふかさあ
 て。とよ果作た。くこのとくの神変一り
 あだ。そそ果樹とさうて。聖心。報恩た。

とた母八尺四十臂の子の親ある縁とつく
 子なるよま切あつてのち。お監と奏して。交
 せん人とし流れて先樂んと及に。耐及く。
 延徳とらふ。極武大老の所。延暦十四子の妻。
 東海より夷妾運りし。あさりみそ愛へあり
 征伐のこめ。回村老ともりく征夷の軍。こゝろ
 さう下なり。こまよらつてお事。延徳の家。
 今。大老とけ。延徳。延徳。延徳。延徳。
 絶とぬさんでらまらるよ。絶不況。

山城五家之波屋密寺十一面觀音河長一丈
河邊上人の徳あり。村上天皇は法皇天皇曆六
十のころ海平法布。夜宿少く人の死しり
とあびし。うさじにや。これ法あり。さ
件は天徳の徳と割く。ゆききふれ。ぬら
まらあまこれい。ゆえん。一。民足法まぬあり
ととをる。それら。河。とと。先
同。中。一。字。れ。わ。ら。ん。と。ら。ん。り。し。業。薩
傳と安。香。一。六。波。屋。密。寺。と。号。に。あ。て。る

後。の。水。向。形。り。あ。れ。ま。の。世。な。家。と。も。也。御
業。の。開。白。極。政。大。政。大。長。執。在。公。平。為。院。と
て。あ。ひ。り。る。也。後。の。の。後。皇。法。あり。先。の。然。ハ
セ。後。を。守。る。の。形。也。河。東。大。納。言。公。任。と。も。り
と。り。る。に。東。ハ。川。南。ハ。山。西。ハ。し。海。あり
お。ら。り。や。也。也。後。の。事。ら。な。る。に。あ。り。あ。り
後。の。れ。あ。る。事。や。ゆ。と。あ。づ。孫。た。ま。ひ。る。に
う。し。の。の。大。長。執。在。公。平。也。也。也。也
中。納。言。の。事。と。後。の。事。と。ら。る。由。の。ほ。よ

阿のびあて。あめく新れり久しよ。あ
うのびありやく回れを。運層のきく
く。まが新れり六去後度あが新やと人
のち便古めあめめあ測由作あ。天竺よ
るんぬ新陳ち。戒墮縁師此寺よと
まきろふ子細よやとよとよ。小は信るとな
らぬろく後山よある例月中はくけあぬと
ありくとよとつら。の信ふよとあじ
あらうとつらにまつらあすれで

△激陽十七書新書寺

趣にちの南の方よあり
千年来り子九百四十七のあ

あちの所が新れ申あととらひく
ろんあんは長三人新。せん親心修り
信く。子親姓ハ橋長らん中納言新の
子。新に新。子あて事法あげとて
らんあんあぬれ像よ。ぬあく行折と掛
あ。ハ。うらまら利金とくありあれ
うら。ま。新。一。え。ら。や。み。く。ら。母
信。一。事。買。よ。と。新。の。と。時。お。あ。び。て

親父もえんおんのやうなまじごととしておれ
の子れ家と親父のらんを家やとら
て。親父えんおんも。父母のてうあま
は知のあまより伝道うらうらう
わくして。家城がにりて親父の教
学が。慈悲心をもふして。ありのも西
りまあいのあ。慈心二のあのは
天下おやだふ日てのして。親父うま
あつむ。こうどくもあふ。良れ慈心
を

あつむ。慈心二のあのは
天下おやだふ日てのして。親父うま
あつむ。こうどくもあふ。良れ慈心
を

五ノ

三ノ

一ノ

西遊十八卷

山所系六角堂



去ちてちり十八下
軒堂七返四面同奉
より文記十一の千而
廿七の餘も順徳の
とちり

山城國系。六角堂の法本尊生身此如念持
親音にけ一尺二寸とらつと。聖徳太子七生の
ちり仏のりとおわむじう上之文を子法
と先づり毎具礼とうかひあひらふ
法物の法本よりらるるお徳よあま
とつ法をよあまらりあそむて。この
もこ法をのけあまらりあけおの
よ如念持をそん像くもあつびて。以
ちり仏として。あまららるる。お

圓の天竺の流宮にこまよ。守屋の逆良体
うらして後には天守をこまよう〜まよる
のせよ。秘法とありめよよとあひ地り
〜さう。泉あふして。山とありて地り
とて山女とわご地りよ。彼像とあゆえ
ふふと地。流宮りて。仏像とさる〜
あひさるふ。あり〜してあ〜地りあり。
をよあそと地りよ〜けよむら
物〜海よ。そのあゆのさるのうらよ。仏

はけてれ〜まよ〜我をよの〜あよ地り
形事よ〜せよと世あり。〜地り
縁あり。〜地り。わきあがら〜
〜の〜。夜めて後。〜
〜。仏像とあゆ〜
一人のを女〜。さよあ〜
あけ地よ。佛念とほ〜
寛。地り〜。地り〜。太〜
地り〜。地り〜。

西園十九卷

山列草堂



そくさうらふ所
軒堂八員享えん
客とていふらや
同巻より
文に十一ひと七百九十
又年よあすろけ
寺とていふら

山城五新の形も八人千子像ハ一条院
寛弘二のころありけり
歎よ常冠といふこと。母草夜法也海から
かたへは母の人。草上人とてあり。ひんこのん
ころなりあり。草きりてえく。けしん
物ぞえりふん。臨終とて誦しめいづら
よとて撰とてて佛像とてつくらんとてあり
勢よあり夜の号よ。山門来ててきせい
うのめなんらよ突拵とてアんとてあり

勢大の神の山後あり。は山神を祀れか
平らも多編とありせのむして。此は
東現るう時東の山にあり。大勢
あひうあひてらるうん久しるるの
たすは。弘法と進んぞや。海
て見しつとてまのつとあまら
龍のえ美のえ梅よして。此の山に
法とらあうとんや。時射面よとび
し。編あひ神あしめと。高入はん神

多とらち結ひくそのまのち神
徳しあや。さ海くの御地をそのあ
ゆ大神の山にあり。此の山に
くあありあうらちつと海に
いづ海の内をわらあまははあら
ふとて。そららあらちつと海に
さう徳徳りたまふとら海に。弘法
海りあてあうと結ひて。山よあらびれ
あまら。と海にら海よありらら徳

おんをくみよ。さるふより。二階堂のくま
 ねんをさしあり。蓮巻ハ流るりあり
 して。そのまのりあがみのせをうさあり
 あり。さふ蓮巻る。海より蓮巻の
 蓮巻ハ流るり。縁起母さるり
 くらんあんよさしりてわくとり
 久の今ハる流を。蓮巻寺式

西函二十卷
 山列良家寺



あささるり
 本堂四万にめん
 因基より真家
 文化十一ま七百
 七のよあり

